令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和８年４月１４日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容
教科に関する調査
→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立大井第一小学校

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組（ 国語 ）

（1）定着状況についての概要

＜平均正答率の比較＞　学校平均 - 全国平均が、＋8 以上 …◎、＋7.9～0 …○、－ …×

2 年			3 年			4 年			5 年			6 年		
全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
◎	○	◎	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎

・全学年で基礎・活用とも全国平均を上回る。
・活用の全国平均との差は 9.9～17.2 ポイントであり、強みが見られる。
・一方、第４・５学年の基礎は全国平均を 4.9・5.7 ポイント上回るにとどまり、設問別に定着を確かめる必要がある。

（2）具体的な課題

① 第２～４学年では記述問題の無回答が課題である。資料に示された無回答率は第２学年 19.8%、第３学年 18%、第４学年 20%である。
② 第４学年の漢字「感想」は校内 49.6%・全国 60.2%である。第５学年でも漢字の読み書きや、行数・段落構成の条件に沿って書く問題に課題が見られる。

（3）課題の原因として考えられること

① 書く内容を思い付いても、必要な情報を選び、順序や構成を考えて文章にする過程でつまずいている可能性がある。無回答の理由は、時間不足や条件の理解も含めて確かめる必要がある。
② 漢字を単独で練習することと、語の意味を理解して文脈の中で読み書きすることとの接続が十分でない可能性がある。

（4）課題解決のための方策（取組指標）

① 短い記述から取り組み、話す・メモにする・文にする段階を設ける。問いと条件を確かめ、自分の言葉で書いた後に読み直す活動を継続する。
② 漢字を含む短文づくりや既習漢字の振り返りを行う。作文では行数や段落などの条件を明示し、児童同士で確かめる。無回答の児童には途中のメモや聞き取りから支援を調整する。

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組（ 社会 ）

（1）定着状況についての概要

＜平均正答率の比較＞　学校平均 - 全国平均が、＋8 以上 …◎、＋7.9～0 …○、－ …×

4　年			5　年			6　年		
全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎

・全学年で全体・基礎・活用とも全国平均を上回る。
・全体の全国平均との差は第４学年 7.6、第５学年 8.5、第６学年 9.8 ポイントである。
・ただし、平均の高さだけでは捉えられない資料の読み取りや知識の活用の課題がある。

（2）具体的な課題

① 第４学年では買い物の方法を考える問題や、商品の産地について複数の資料を読み取る問題に課題が見られる。
② 第５学年の「自然に備えた地域の取組」は校内 49.6％・全国 56.1％である。第６学年でもユーラシア大陸の位置と名称に関する問題が全国平均を下回る。

（3）課題の原因として考えられること

① 資料から個別の事実を読み取ることに比べ、複数の資料を比較・関連付け、判断の根拠として使う経験が十分でない可能性がある。
② 地域の取組の目的や地理的な位置関係を、具体的な事例や地図と結び付けて理解することに課題があると考えられる。

（4）課題解決のための方策（取組指標）

① 写真・地図・グラフを比較し、「どの資料の何を根拠にしたか」を示して説明する活動を単元に位置付ける。個人で整理した後に対話し、考えを修正する。
② 防災を身近な地域の事例と結び付け、取組の目的と効果を説明する。地図帳や白地図を継続的に使い、位置・名称と学習内容を関連付けて確かめる。

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組（ 算数 ）

（1）定着状況についての概要

＜平均正答率の比較＞　学校平均 - 全国平均が、＋8 以上 …◎、＋7.9～0 …○、－ …×

2 年			3 年			4 年			5 年			6 年		
全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
○	○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

・全学年で全体・基礎・活用とも全国平均を上回る。
・第４～６学年の活用は全国平均を 11.5～17.8 ポイント上回る。
・学力層の分布では第４学年のＣ層が 38.4％であり、つまずきに応じた支援を工夫する必要がある。

（2）具体的な課題

① 第２学年では繰り下がりと立体の問題に課題が見られる。第３学年では加法の結合法則を用いた計算の順序や長さの単位の関係に課題があり、長さは前年度資料でも指摘されている。
② 第６学年では三角形の作図に課題が見られる。計算や作図の手順と、その根拠となる数量・図形の性質を結び付けて理解することが必要である。

（3）課題の原因として考えられること

① 計算の手順や単位の名称を覚えていても、数の構成、単位の関係や図形の性質を具体物・図・式と結び付ける理解が十分でない可能性がある。
② 児童によってつまずきの箇所が異なり、一斉の解説だけでは理解の確認や必要な練習が十分に行き届いていない可能性がある。

（4）課題解決のための方策（取組指標）

① 繰り下がりを数のまとまりで説明し、計算の順序は式と図を対応させる。長さは実測と単位換算を結び付け、大小を判断した理由まで説明する活動を行う。
② 立体は操作・観察、作図は辺や角の性質の確認を伴って指導する。短い確認問題でつまずきを把握し、少人数や個別の支援、理解に応じた問題で定着を図る。

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組（ 理科 ）

（1）定着状況についての概要

＜平均正答率の比較＞　学校平均 - 全国平均が、＋8 以上 …◎、＋7.9～0 …○、－ …×

4　年			5　年			6　年		
全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
○	○	○	○	○	○	◎	○	◎

・全学年で全体・基礎・活用とも全国平均を上回る。
・第５学年は基礎 70.9%、活用 48.0%で、全国平均との差はそれぞれ 3.2・6.0 ポイントである。第６学年の活用は全国平均を 11.6 ポイント上回る。

（2）具体的な課題
① 第４学年では虫眼鏡の使い方に課題があり、前年度にも課題として挙げられている。太陽の位置と影のでき方、磁石の性質についても理解を確かめる必要がある。
② 第５学年ではオタマジャクシを観察できる季節、骨の働き、物の体積と力、水を加熱したときの温度変化、結露などに課題が見られる。

（3）課題の原因として考えられること
① 器具の扱いを一人一人が実際に試して確かめる経験や、観察した事実を言葉で説明する機会が十分でない可能性がある。
② 学習した知識が個別の用語や実験結果にとどまり、季節や生活の現象と関連付けて使える理解につながっていない可能性がある。

（4）課題解決のための方策（取組指標）
① 虫眼鏡などの器具は、実際に操作しながら使い方を説明させ、個別に確認する。太陽と影や磁石は、予想と観察・実験結果を対応させて考察する。
② 生物の季節変化を継続して記録し、骨の働きや水の状態変化は身近な現象と結び付ける。単元末には既習事項で説明する課題を設け、根拠を示して表現する活動を行う。

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組（ 英語 ）

（1）定着状況についての概要

＜平均正答率の比較＞　学校平均 - 全国平均が、＋8 以上 …◎、＋7.9～0 …○、－ …×

6　年		
全体	基礎	活用
○	○	○

・第６学年の全体は 87.5%、基礎 89.5%、活用 81.3%で、いずれも全国平均を 6.8 ポイント上回る。
・全体として良好な結果である一方、特定の語句については定着を確かめる必要がある。

（2）具体的な課題

① 曜日・月名に関する問題に課題が見られる。学習した語句を繰り返し扱い、意味と表現を結び付けて理解することが必要である。
② 日常生活に関わる語句では、スポーツに関する問題などが全国平均を下回る。正答・誤答の内容に応じて、語句の理解や使い方を確かめる必要がある。

（3）課題の原因として考えられること

① 語句に触れる機会が特定の単元に偏り、時間を置いて思い出したり、別の場面で使ったりする経験が十分でない可能性がある。
② 音声・意味・文字の結び付きのどこにつまずきがあるかは、今回の資料だけでは特定できない。実際の解答や授業での反応と照合する必要がある。

（4）課題解決のための方策（取組指標）

① 曜日・月名を予定や行事のやり取りに取り入れ、スポーツなどの語句は好みや経験を伝える活動で繰り返し使う。既習の語句を短時間で振り返る機会を設ける。
② 音声を聞いて意味を捉える、場面に合う語句を選ぶ、文字を確かめる活動を組み合わせる。児童の反応を見取り、必要な語句を小集団や個別でも練習する。